(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170700175		
法人名	医療法人天心堂		
事業所名	グループホームさくら荘		
所在地	佐賀県鹿島市大字中村2191番地2		
自己評価作成日	令和元年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和1年11月26日	外部評価確定日	令和1年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・理念にもあるように、利用者様とのふれあいを大切にして、いつも笑顔で生活して頂けるように支援している。家族にも安心して頂けるよう、職員も家族の一員として振る舞い、日常の状況や健康面の事などはこまめに報告し、信頼関係作りを力を入れている。また、家族参加型の行事を定期的に行い、入居者と家族の関係継続にも力を入れている。</p> <p>・入居者の自立支援・重度化防止の観点からリハビリ専門職が来荘し定期的に入居者の身体状況を評価、日常的に行える機能訓練を介護職員へ指導してもらい実施している。</p> <p>・入居者の高齢化・介護の重度化に伴い、最期までさくら荘で過ごしたいという看取りの希望も多くあり、法人の医療スタッフと連携をとりながら最期の住処としての役割も担っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者の「暮らしの延長上に職員がいるだけ」の言葉に代表されるように職員は家族の一人として「利用者様とのふれあいを大切にし、生きる喜びを共有し、常に笑顔で、安らぎのある生活が送れるよう」にと、日頃の支援に臨んでいる事業所である。利用者主体の支援、これまでの生活習慣を変えない工夫は、利用者の安らぎのある表情となって現れている。常に「笑顔」のある支援は、利用者と家族に、ゆっくりと暮せる、自由に出入りができる環境にある、訪ねやすい、気兼ねなく相談できる等の声となっている。</p> <p>母体である医療法人が「一本の大きな木のように～地域に安心と豊かさを～」を運営理念としており、「さくら荘」も、同じ地域の中にある一軒の家でありたいと地域に溶け込んでいる。おくんちの獅子舞や浮立を地域の方と一緒に楽しむ、文化祭に出品する、地域の子どもたちと交流する、法人の夏祭りの出店で祭りの雰囲気を感じ、近くのバラ園の見学や買い物に出かける、回覧板を回すときは必ず会話を交わして渡す、その他多くの交流事例がある。特に地域からの要望を受けて新設された「エバーガーデン(リハ庭園)」は、利用者の良き散歩コースでもあり、地域の方とのふれあいの場所ともなっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所では「地域に溶け込み、地域に根ざすグループホーム作り」を理念としている。毎朝朝礼で理念の唱和を行い職員が常にその意識を忘れずサービス提供できるようにしている。	当事業所では「地域に溶け込み、地域に根ざすグループホーム作り」を理念としている。毎朝朝礼で理念の唱和を行い職員が常にその意識を忘れずサービス提供できるようにしている。	母体である法人の理念とリンクしての、事業所独自の理念である。理念を共有し、具現化するために、毎月の目標を設定している。また、年度末には理念の再検討もしている。理念の明示や唱和は、自然体で理念を意識しながらの日常の支援と結び付いている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、公民館掃除や溝掃除、おくち等に参加。また、地域ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	自治会に加入し、公民館掃除や溝掃除、おくち等に参加。また、地域ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	地域の中にある一戸としてのつきあいが深い。地域公民館掃除や溝掃除には職員が汗を流している。回覧板を受け取る時や次に回す時には必ず会話を交わしている。地域運動会のリレー選手の要請もある。新しく造られたリハビリ庭園は地域とのつきあいを深めたい意図があり地域の方にも開放している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元小学校児童の課外授業に協力し、小さいうちから認知症高齢者と自然に触れ合うことができるような環境を提供している。	地元小学校児童の課外授業に協力し、小さいうちから認知症高齢者と自然に触れ合うことができるような環境を提供している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。会議では、入居者の状況や事業所の活動について報告。地域の方から「どんなサービスをやっているのか」との声があったという意見が出たためHPでの活動状況報告の強化などを行った。	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。会議では、入居者の状況や事業所の活動について報告。地域の方から「どんなサービスをやっているのか」との声があったという意見をいただきHPでの活動状況報告の強化などを行った。	会議は、利用者の状況や日常活動の様子を報告するだけでなく、事業所としての諸情報の発信の機会、また、第三者の目や意見が入る貴重な機とも捉えている。「運営推進会議新聞」は、会議の内容が一目でわかる様にまとめられており、会議で出された質問や意見はその後の運営やサービス向上に活かされている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも出席して頂き事業所の現状を伝えている。介護人材不足について市主催の人材確保のための説明会を開催してもらったり、市から福祉避難所としての協力要請(協定締結)に応じるなどお互いに協力している。	運営推進会議にも出席して頂き事業所の現状を伝えている。介護人材不足について市で人材確保のための説明会を開催してもらったり、市から福祉避難所としての協力要請(協定締結)に応じるなどお互いに協力している。	行政の担当者とは運営推進会議や研究発表会の場で顔を合わせる機会も多い。電話でのやり取りや直接担当課へ出向いての相談や情報交換も行っている。行政が関わる研修会の講師を務めるなど緊密な連携が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待の勉強会を実施し、拘束しないケアの方法を検討しながら日々取り組んでいる。	身体拘束、虐待の勉強会を実施し、拘束しないケアの方法を検討しながら日々取り組んでいる。	これまで身体拘束の事例は無い。事業所独自の年間研修計画には「身体拘束の無いケア」「倫理」を年度当初に実施している。職員は法人の研修会、外部研修を通じて、身体拘束の弊害を十分に認識している。スピーチロックの無い支援でもある。玄関は日中は施錠も無く出入りが自由である。家族とも拘束の無いケアとそのリスクについても十分に話し合いがもたれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、虐待とはどういうものかを知り、ケアしている。特に言葉の暴力には注意するように声かけし、接遇に力を入れている。	勉強会に参加し、虐待とはどういうものかを知り、ケアしている。特に言葉の暴力には注意するように声かけし、接遇に力を入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間勉強会計画を立案し、研修を実施するようにしている。	年間勉強会計画を立案し、研修を実施するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者・家族に現状の問題や不安点を確認し説明している。解約理由としては死亡がほとんどであるが病院への転院時などは十分主治医と共に話し合いを行っている。また料金改定時などは、改定内容を明記した文書を送付し、説明・同意を得ている。	契約時に利用者・家族に現状の問題や不安点を確認し説明している。解約理由としては死亡がほとんどであるが病院への転院時などは十分主治医と共に話し合いを行っている。また料金改定時などは、改定内容を明記した文書を送付し、説明・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の定期的なアンケートを実施し、質問とその回答を公表している。頂いた要望や意見についてはカンファレンス等で話し合い対応している。	年2回の定期的なアンケートを実施し、質問とその回答を公表している。頂いた要望や意見についてはカンファレンス等で話し合い対応している。	何よりも笑顔で、面会時には必ず声をかけ要望や意見等を聴いている。家族との諸情報は、職員全員が共有できるシステムになっている。アンケートは家族用と利用者用があり、満足度の結果を運営に反映している。言葉遣いについて、すぐに接遇の勉強会を開いたのはその一例である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の定期的なアンケートを実施している。	年1回の定期的なアンケートを実施している。	毎月の全職員出席しての職員会議、毎日の打ち合わせ、勉強会、アンケート、個人面談等職員が意見等を述べる機会が多く、職員は忌憚なく考えを述べ合っている。ケアや諸行事の改善点の決定も早い。管理者や上司は職場環境づくりに努め、職員の希望や事情を考慮した勤務体制がとられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回実施し、スキル評価を行っている。年度始めに部署・個人目標を立て、実践できるようにサポートしている。	人事考課を年2回実施し、スキル評価を行っている。年度始めに部署・個人目標を立て、実践できるようにサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月介護保険部の勉強会・さくら荘の勉強会を実施。参加状況に応じて加算される学習ポイント取得制度を導入。またeラーニングも取り入れ各自が自分のペースで勉強できる環境になっている。	毎月介護保険部の勉強会・さくら荘の勉強会を実施。参加状況に応じて加算される学習ポイント取得制度を導入。またeラーニングも取り入れ各自が自分のペースで勉強できる環境になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿島・太良・嬉野地区のグループホーム12施設で交流会を毎月開催し、職員の勉強会、入居者のレクリエーションなど開催している。	鹿島・太良・嬉野地区のグループホーム12施設で交流会を毎月開催し、職員の勉強会、入居者のレクリエーションなど開催している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会に行き、本人と話をし、要望や不安材料は何かを聞くようにしている。初対面での第一印象は大切と感じているので、対応に十分配慮しながら面談している。	入居前に面会に行き、本人と話をし、要望や不安材料は何かを聞くようにしている。初対面での第一印象は大切と感じているので、対応に十分配慮しながら面談している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも入居前に面談を行い、入居までの経緯や問題点を聞いて、共感し、ねぎらいの言葉をかけている。初対面での第一印象は大切なため、十分気をつけて面談している。	家族にも入居前に面談を行い、入居までの経緯や問題点を聞いて、共感し、ねぎらいの言葉をかけている。初対面での第一印象は大切なため、十分気をつけて面談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、今必要なサービスを見極め当事業所での対応が困難な場合は、本人家族に説明・同意を得た上で、他サービスの紹介や調整をおこなっている。	入居前の面談で、今必要なサービスを見極め当事業所での対応が困難な場合は、本人家族に説明・同意を得た上で、他サービスの紹介や調整をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の「できる能力」を把握した上で、その能力に応じた作業を一緒にやっている。	入居者の「できる能力」を把握した上で、その能力に応じた作業を一緒にやっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者からの家族への要望などを伝え、できるだけ要望が叶うような働きかけをしている。	入居者からの家族への要望などを伝え、できるだけ要望が叶うような働きかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも来ていただけるような雰囲気作りに努めている。	面会はいつでも来ていただけるような雰囲気作りに努めている。	利用者の生活歴、馴染みの人間関係、地域との関わり、その他諸情報を把握し、それらを支援に活かしている。病気お見舞いに同行したり、かつて利用していた店に買い物に出かけたり、近所の公園に見学に行く、これまで暮っていた地域までドライブする等、これまでの関係が途切れない様に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけホールで過ごしていただき、コミュニケーションの取次をしている。洗濯物たたみなど一緒にしていただくような環境作りをしている。	日中はできるだけホールで過ごしていただき、コミュニケーションの取次をしている。洗濯物たたみなど一緒にしていただくような環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療のため契約終了した後も家族の状況によっては面会を継続的に行い洗濯物の回収、洗濯を行っている。	入院治療のため契約終了した後も家族の状況によっては面会を継続的に行い洗濯物の回収、洗濯を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の希望を言える方が少ない。日頃の会話や生活状況から思いを引き出すよう努力している。	自分の希望を言える方が少ない。日頃の会話や生活状況から思いを引き出すよう努力している。	利用者の心に寄り添いながら、思いや意向の把握に努めている。散歩の途中、入浴中のひととき、居室での会話など、その機会は多い。表情、ちょっとした行動の変化、口調、つぶやき等からも利用者の心情を押し量り、支援に活かしている。利用者の笑顔や安心の表情を何よりの満足感と捉えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や担当ケアマネジャーに話を聞き、生活歴や家族関係など情報収集し把握に努めている。家族との良好な関係作り力を入れ、関係作りができたところで本音などを聞き出している。	入居前に家族や担当ケアマネジャーに話を聞き、生活歴や家族関係など情報収集し把握に努めている。家族との良好な関係作り力を入れ、関係作りができたところで本音などを聞き出している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット毎に職員を固定にし、顔なじみの関係作りを努め、個々の状態把握に努めている。またケース会議を月1回実施し、個々の状態を報告し共有している。	ユニット毎に職員を固定にし、顔なじみの関係作りを努め、個々の状態把握に努めている。またケース会議を月1回実施し、個々の状態を報告し共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、6ヶ月ごとにプランの見直しを行っている。家族や本人に希望を伺うが、なかなか具体的な希望がでない。職員同士で今何が一番必要か話し合い、立案している。	毎月モニタリングを行い、6ヶ月ごとにプランの見直しを行っている。家族や本人に希望を伺うが、なかなか具体的な希望がでない。職員同士で今何が一番必要か話し合い、立案している。	利用者と家族の希望や意向が十分に活かされている介護計画である。利用者がこれまでの生活の延長として暮していけるようにと具体的で実現可能な計画でもある。計画立案には全職員が関わり合いを持っている。介護計画の変更は、本人の状況変化に応じて、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の経過記録を入力し、プランの実行確認も行なっている。管理日誌には情報伝達や家族との関わりを入力し共有している。	毎日個々の経過記録を入力し、プランの実行確認も行なっている。管理日誌には情報伝達や家族との関わりを入力し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向や現状に応じて適切なサービスが行われるよう取り組んでいる。	本人・家族の意向や現状に応じて適切なサービスが行われるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃からの地域ボランティア受け入れや、地域行事への参加を通して顔見知りの関係を作るようにしている。	日頃からの地域ボランティア受け入れや、地域行事への参加を通して顔見知りの関係を作るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所が病院併設ということで入居を希望される方が多い。密に連携をとることで医療面でも安心できるとの家族の意見がある。	当事業所が病院併設ということで入居を希望される方が多い。密に連携をとることで医療面でも安心できるとの家族の意見がある。	利用者や家族が希望する医療機関での受診であるが、ほとんどの利用者が母体病院の患者でもあり、これまでの主治医による継続的な診療を受けている。健康診断も含めて定期的な訪問診療も行われ、利用者や家族も健康管理に不安を抱いていない。専門外の受診もスタッフが支援している。歯科も訪問診療での支援である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問診療と1週間に1回看護師が状態確認のために来荘し、体調面の管理をしていただいている。また、体調不良時はその都度報告し、様子を観に来てもらっている。そのためにも情報をこまめに提供している。	2週間に1回の訪問診療と1週間に1回看護師が状態確認のために来荘し、体調面の管理をしていただいている。また、体調不良時はその都度報告し、様子を観に来てもらっている。そのためにも情報をこまめに提供している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時職員が付き添い、日頃の状況を説明している。毎日病院へ面会に行き状態の確認を行なっている。入院中の衣類洗濯もさくら荘で行なっている。	入院時職員が付き添い、日頃の状況を説明している。毎日病院へ面会に行き状態の確認を行なっている。入院中の衣類洗濯もさくら荘で行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族にはACP、看取りケアについて説明し希望を聞いている。その時期が来たら再度、家族、主治医、看護師、職員での話し合いの場を設け、看取りを希望された場合は連携をとりながら取り組んでいる。	入居時に家族にはACP、看取りケアについて説明し希望を聞いている。その時期が来たら再度、家族、主治医、看護師、職員での話し合いの場を設け、看取りを希望された場合は連携をとりながら取り組んでいる。	明確な指針が用意されており、入居時に利用者や家族が納得のいく話し合いがもたれ、方針の統一を図っている。入居後も状況変化に応じて本人と家族の意向を踏まえて、関係者と連携をとっている。最期を迎えられそうな時には、勤務時間以外の職員も自然に集まり安らかな最期を見送っている。家族が宿泊出来る設備も用意されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し実施している。急変時は「ハリーコール」を行い、医師、看護師などの職員がかけつける体制になっている。	緊急時の対応マニュアルを作成し実施している。急変時は「ハリーコール」を行い、医師、看護師などの職員がかけつける体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回実施し、それ以外に水害訓練も行っている。非常連絡網には地域の方の電話番号も記載して連絡が取れるようにしている。	火災避難訓練は年2回実施し、それ以外に水害訓練も行っている。非常連絡網には地域の方の電話番号も記載して連絡が取れるようにしている。	消防計画と災害対策マニュアルに基づいての年2回の火災避難訓練である。そのうち1回は夜間を想定し、実際に暗くなり始める夕刻に実施している。二階ユニットの利用者や職員も階段を利用した避難を体験している。近所の方や地域の消防団も参加しての避難訓練である。非常食や飲料水の備蓄もある。ハザードマップも自然災害対策に重視している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・倫理の勉強会を実施し、言葉使いなどには十分注意している。月間目標にもあげて取り組んだ。広報誌などに写真を使用する場合は承諾を得るようにしている。	接遇・倫理の勉強会を実施し、言葉使いなどには十分注意している。月間目標にもあげて取り組んだ。広報誌などに写真を使用する場合は承諾を得るようにしている。	利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、その方らしい姿を大切にすることをケアの基盤としている。さりげなく言葉をかけたり、利用者の誇りを大事にした支援が見受けられた。秘密保持、個人情報もきちんと管理されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声かけしているが、なかなか希望を言える利用者が少ない。	自己決定できるような声かけしているが、なかなか希望を言える利用者が少ない。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴なども本人へ希望を聞いて、入りたく無いと言われたら、日程を変更したりしている。また、散歩に行きたい等の要望があれば、その都度応ずるようにしている。	入浴なども本人へ希望を聞いて、入りたく無いと言われたら、日程を変更したりしている。また、散歩に行きたい等の要望があれば、その都度応ずるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには十分注意しており、好みの服を家族に準備してもらっている。希望される方には、化粧などもできるよう支援している。	身だしなみには十分注意しており、好みの服を家族に準備してもらっている。希望される方には、化粧などもできるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の介護度が重度化しているため一緒に食事作り等はできていない。	入居者の介護度が重度化しているため一緒に食事作り等はできていない。	以前は職員も一緒に食事を摂っていたが、現在はそっと見守ったり、声かけをしたり、食事介助をしながらの食事である。利用者は自分のペースで食事をいただいている。献立は利用者の状況に応じた外注の食事であるが、ご飯とみそ汁は、ホームの台所で調理、準備している。利用者は食べ終わった食器を重ねたり、テーブルを拭くなど、家庭での食事風景を思わせる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない方に対しては栄養部と相談して、補助食品の提供など行っている。水分摂取量が少ない場合はコーヒー牛乳など好みの物を提供したり、汁物を多めに提供したりしている。	食事摂取量が少ない方に対しては栄養部と相談して、補助食品の提供など行っている。水分摂取量が少ない場合はコーヒー牛乳など好みの物を提供したり、汁物を多めに提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。歯磨きができない方にはガーゼでの清拭を行なっている。また定期的に栄養サポートケア委員会によるラウンドがあり、口腔内の状態確認や口腔ケアの指導が行われている。	毎食後行っている。歯磨きができない方にはガーゼでの清拭を行なっている。また定期的に栄養サポートケア委員会によるラウンドがあり、口腔内の状態確認や口腔ケアの指導が行われている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツの種類も状態に応じて検討・対応している。また排泄チェック表を活用しながら個人の排泄パターンを予測しトイレへ誘導するようにしている。	オムツの種類も状態に応じて検討・対応している。また排泄チェック表を活用しながら個人の排泄パターンを予測しトイレへ誘導するようにしている。	一人ひとりの排泄習慣やパターンが把握されており、可能な限りトイレでの排泄ができる様な工夫や支援である。こまめに言葉をかけて誘導したり、パットをそれとなく替える、リハビリパンツの利用などでトイレでの排泄を支援している。入居後にトイレ利用が可能になった利用者もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホール内で行える運動を個別に行なってる。また乳製品やココア等を摂取してもらうようにしている。排便チェック行い、便秘が続く場合は、医師の指示に基づき下剤を服用している。	ホール内で行える運動を個別に行なってる。また乳製品やココア等を摂取してもらうようにしている。排便チェック行い、便秘が続く場合は、医師の指示に基づき下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回を目標に入浴していただいている。介護度の重度化に伴い、リフト浴を設置している。本人に希望を聞いて、入りたくないと言われたら、日程を変更している。	週3回を目標に入浴していただいている。介護度の重度化に伴い、リフト浴を設置している。本人に希望を聞いて、入りたくないと言われたら、日程を変更している。	一日毎の入浴を基本にしているが、希望する方には柔軟に対応、支援している。入浴順、入浴時間帯などに特に決まりは無い。お風呂好きな利用者が多く、利用者が本音を話す機会になることも多い。リフト浴は利用者だけでなく、職員の負担軽減にもなっている。柚子湯や菖蒲湯を楽しむこともある。冬場は特にヒートショックに留意した支援でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休息を希望される方以外はホールで過ごしたり、ソファで休んで頂いている。眠そうにされているときは、居室へ誘導している。	居室での休息を希望される方以外はホールで過ごしたり、ソファで休んで頂いている。眠そうにされているときは、居室へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があった場合は、医師・看護師・薬剤師等からの説明を受けている。また、処方薬の説明書にも目を通し注意事項など確認している。	内服薬の変更があった場合は、医師・看護師・薬剤師等からの説明を受けている。また、処方薬の説明書にも目を通し注意事項など確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換には散歩を多く取り入れている。	気分転換には散歩を多く取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたいなどの要望があれば敷地内の庭園や、事業所の近隣まで出かけている。遠くへの外出希望などはほとんどないが、希望時は外出支援を行っている。	散歩に行きたいなどの要望があれば敷地内の庭園や、事業所の近隣まで出かけている。遠くへの外出希望などはほとんどないが、希望時は外出支援を行っている。	近所や広い敷地内の散歩が多い。新しく完成したりハ庭園は絶好の散歩コースでもあり、外気浴の場所でもある。近くの青果店まで買い物に行ったり、バラ園まで見学に出かけることもある。車椅子利用の方も一緒に戸外へも出かけている。花見、保育園の運動会見学など希望による外出もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されている方はいらっしゃらない。	希望されている方はいらっしゃらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば取り次いでいる。	希望があれば取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じれるよう花を飾ったり、クリスマスや正月などの飾り付けを行い雰囲気作りをしている。居室は好みで飾ってもらっている。	季節感を感じれるよう花を飾ったり、クリスマスや正月などの飾り付けを行い雰囲気作りをしている。居室は好みで飾ってもらっている。	ほとんどの利用者が過ごす時間が長い居間は、自然光が差し込み、明るくて静かである。テーブル、ソファの配置を工夫し畳の間もある。寒い季節には、こたつも置かれる。利用者は思い思いの場所でゆっくりとくつろいでいる。生活感や季節感のあるものを活用して暮らしの場を整えている。トイレ、玄関、浴室、洗面所などにも清潔で無用な刺激も無い。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1F) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2F) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせる ような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファ・畳などいくつか のエリアを設け、思い思いに過ごせ るようにしている。	テーブル・ソファ・畳などいくつか のエリアを設け、思い思いに過ごせ るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家 族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室はベッドとタンスのみ備え付 けており、他は使い慣れたものや、好 みのものを持ってきてもらうようにし ている。	居室はベッドとタンスのみ備え付 けており、他は使い慣れたものや、好 みのものを持ってきてもらうようにし ている。	利用者が心を安らげ、落ち着 いて過ごすことができる様にと 家族と協力しての居室環境づ くりである。馴染みの物や思 い出の品などの持ち込みに特 に制限は無い。使い慣れた枕 や寝具、お気に入りの服、時 計、家族の写真、手芸道具、 テレビ、化粧品、手鏡など 色々なものが見受けられた。 各居室ともその方を思わせる 環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	事業所内はバリアフリーとなっている。 トイレのドアには大きく「トイレ」と 表示するなど、入居者に理解しやす いよう工夫している。	事業所内はバリアフリーとなってい る。トイレのドアには大きく「トイレ」と 表示するなど、入居者に理解しやす いよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果			
		ユニットA	ユニットB	↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と	
				2. 家族の2/3くらいと	
				3. 家族の1/3くらいと	
				4. ほとんどできていない	
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように	
				2. 数日に1回程度ある	
				3. たまに	
				4. ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている	
				2. 少しずつ増えている	
				3. あまり増えていない	
				4. 全くいない	
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が	
				2. 職員の2/3くらいが	
				3. 職員の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が	
				2. 家族等の2/3くらいが	
				3. 家族等の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	